

農山村と都市を結ぶ——地域と人の力

CSO ネットワークシンポジウム

2013年3月9日

大江正章（コモンズ代表、アジア太平洋資料センター共同代表）

(1) 農山村が豊かになるための5つの条件

① 時代認識——地域力・田舎力の時代

魅力がある地域には人が訪れる

「ないものねだり」から「あるものさがし」へ

交流人口を増やす

② よそ者（Iターン）と出戻り（Uターン）の力を活かす

多くは都会育ちのよそ者が地域の魅力を発見し、全国に伝える

第一次産業の復権や環境保全を重視するよそ者の価値観を6次産業化に活かす

よそ者を受け止める出戻りの包容力——都会と田舎をつなぐ

③ 国内版フェアトレード（公正な交易）を進める

生産者が再生産（プラス α ）できる価格の保障

日本版 CSA・CSF（Community Supported Agriculture/Fishery）を広げる

野菜・米・魚などの代金を消費者が1年分前払い（労働による一部代替もあり）

CSA から ASC へ（Agriculture Supported Community）

④ 小さな起業を考える

直売所や学校給食に出荷する

耕したい市民を指導する

コミュニティ・レストラン、農家レストラン、農家民宿を開く

⑤ 原点は地元

自らがより豊かに暮らし、地元消費の残りを都会へおすそ分けする

地域資源とおカネの循環力を高める

(2)都市の市民が農山村とつながるための4つの条件

①時代認識——21世紀は第一次産業、脱成長の時代

農はカッコイイ——3K から 3K へ

限界なのは、山村ではなく都市

半農半 X・平勤休農・田舎暮らし・帰農・ダウンシフト・下りる

②第二の故郷をもつ

選択できる故郷

一種村人（定住）・二種村人（近隣から通う）・三種村人（都市から通う）

二住生活

③農家と良い関係を創る

知恵と技と生き方に学ぶ

農薬や化学肥料の話は親しくなってから

草で迷惑をかけない

④仲間同士の親密な関係を長続きさせる

それぞれのこだわりを大切にする

参加回数や参加時間で判断しない

農作業だけで終わらないようにする

昼飯はなるべく作り、一緒に食べて飲む

(3)豊かな地域を創るための5つの条件

①原理主義にならない

本来の農業をめざす人は仲間

市場（流通・消費者）をまきこむが、市場（流通・消費者）にまきこまれない

本格就農から週末通いまで尊重しあう

②社会的企業・ワーカーズコープ（コレクティブ）を創る

出資者であり、経営者であり、労働者

まっとうなものを作り広めるという倫理観と、適切なビジネス感覚

「雇われる」「就職する」から「社会に必要な仕事を自ら創り出す」へ

③おカネだけで動かない

短期的に見れば決しておカネにならないことも楽しみながらやる

知恵者は知恵を出し、退職者は時間を提供し、体力ある人は体を動かす

目先のおカネを惜しむと将来の富を失う

④自給的部門を大切にする

米と自給野菜の耕作をやめない（農村）

市民耕作を始める（都市）

そこそこの現金で暮らせる生活のベースを形づくる

⑤新しい豊かさのモデルを発信する

人と人の関係性の豊かさ

世代間の連携

依存できる身近な多くの仲間

地縁・血縁から半地縁・非血縁・知縁・結縁へ

(4)有機農業と地場産業の提携による地域循環型経済—埼玉県小川町

①日本を代表する有機農家・金子美登さん（下里地区、霜里農場）の存在

1971年3月に有機農業を始め、現在の農業労働力は本人、妻、研修生4~5名

経営内容 水田150a、畑140a、米（食用米・酒米）120a、小麦120a、大豆100a、野菜（約60品目）100a、乳牛4頭、採卵鶏200羽、合鴨50羽、山林170a

提携 消費者（米と野菜10戸、野菜と卵20戸）、酒屋、豆腐屋、リフォーム会社

②地場産業との提携

a 晴雲酒造（小川町）が無農薬米で「おがわの自然酒」を製造（1988年）

差別化のために地元の無農薬米を利用

一般酒米の3倍で買い取り、現在は7戸が40俵を納入

b 小川精麦（小川町）が無農薬小麦で「石臼挽き地粉めん」を製品化（1988年）

現在は4戸が10俵を納入、通常小麦の2倍以上で買い取

c ヤマキ醸造（神川町）が無農薬大豆と小麦でヤ醤油を製造（1994年）

d どうふ工房わたなべ（ときがわ町）が無農薬大豆で豆腐を製造

スーパーへの安価な卸売から素姓のわかる高価な豆腐を店頭で販売

輸入大豆の4~6倍で買い取り（現金払い）

下里地区の大豆は全量買い取り

従業員35人、土・日の採算客700~800人、平均単価1400円

e 有機レストラン（4軒）と地ビールのマイクロブルワリー

規格外有機農産物の有効活用

新たな地域コミュニティの誕生

f 伝統産業との連携

和紙の原料・楮をボランティアで生産

米作りから酒造りを楽しむ会

g 商工会青年部の活動

有機農業との連携、小川町らしい食（有機コロッケ、酒粕漬け）

③企業版 CSA

リフォーム会社 OKUTA が無農薬米を一括買い取り（2009年）

下里地区の有機米は全量買い取り 09年1.8t、10年4.4t

前金で一括支払い——農家の手取り価格1俵2万4000円

慣行栽培農家が有機農業に転換

農林水産祭むらづくり部門で天皇杯を受賞

介在役としての農商工連携コーディネーターの存在